



せい しん つう しん
聖 心 通 信

札幌聖心女子学院

校長 齊藤 隆浩

第5号 2021年7月17日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号

TEL 011-611-9231/011-676-7667(職員室直通)

URL <https://spr-sacred-heart.ed.jp>

FAX 011-612-0980

いよいよ明日から夏休みです。約1か月間と長い休みですので、ゆっくりと体を休めつつ、学習面でも計画的に過ごせると良いと思います。オリンピックでにぎやかになる一方で感染症拡大への不安もありますが、自己管理を徹底し、安全で有意義な夏休みとなるようお祈りしています。

8月の予定



	行事	お弁当
1(日)	旭川地区学校説明会(14:00~15:00、プロム旭川駅前)	
2(月)		
3(火)		
4(水)		
5(木)		
6(金)	全国高校即興型英語ディベート大会(~8/7)	
7(土)		
8(日)	山の日 学校閉鎖期間(~8/15)	
9(月)	振替休日	
10(火)		
11(水)		
12(木)		
13(金)		
14(土)	聖心女子大学オープンキャンパス(~8/15)	
15(日)		
16(月)		
17(火)	SOFISオンライン(~8/18)	
18(水)		
19(木)		
20(金)		
21(土)	転入試	
22(日)		
23(月)		
24(火)	掃舎日	
25(水)	始業 オンライン朝礼 地理コンテスト①(1校時) LGBTQ+映画上映会(15:30~)	要
26(木)	SMILE by WATER事業④(16:00~)	要
27(金)	ピアサポートワークショップ(16:15~)	要
28(土)	数学検定(午後)	※
29(日)	私学展(ガーデンパレス札幌)	
30(月)	高1 SDGsスピーチ発表会(2~4校時)	要
31(火)	高1-G Niseko English Camp(~9/4)	要

※ 必要な方は昼食をご用意ください。

「わかちあいプロジェクト」

2020年度オンライン国連研修生9名は、研修中、現在難民の人々が直面している危機的状況を目の当たりにしました。難民の方と共に歩むために、何か行動したいと模索する中で、難民古着支援プロジェクト「わかちあいプロジェクト」に出会いました。この団体では年に一度、難民の方々へ衣類を送るプロジェクトを実施しています。

研修生たちは、少しでも多くの衣類を送るため、学校内にポスターを貼り、昼休みに放送するなどの告知をした結果、予想を超える量の衣類が集まり、驚くと同時に国際問題に対する札幌聖心生の意識の高さを実感しました。集めた衣類は南スーダンで着る服が無く困っている人々に送られます。



梅干し弁当募金

7月7日(水)の梅干し弁当募金では、**総額 44,117円**を寄付していただきました。「北海道盲導犬協会」にお送りし、盲導犬育成の活動に役立てていただきます。ご協力ありがとうございました。



今月の聖句

あなたがたは地の塩です。

マタイによる福音書 5章13節

「塩」は「清め」や「防腐剤」の役目をもち、また聖書では、「知恵」の象徴でもあったそうです。「地の塩」とは「この世を清める存在、本当の命、知恵をもたらす存在」と説明できるでしょう。

先日、「コロナ禍の、この状況だからこそ見えてくることがある」という言葉を聞いて、「今この状況だからこそ見えてくることがある」とは何かと考えました。そして、様々な場面で進んで行動する生徒の姿が浮かびました。日頃の梅干し弁当やボランティアや交流活動に加えて、世界難民の日を記念して楽しく募金できるプロジェクトを考えたり、コロナ禍で苦しい状況にある外国人支援物資を募ったり、南スーダンの難民の方々のために衣料を募ったり、ルワンダ大虐殺を生き延びた女性たちについて学び、すぐ支援の道を考えたりする姿です。

2月のオンライン国連研修でも感じましたが、コロナ禍はオンラインという形で、私達を世界につなげてくれたと思います。

先日、本校チャプレンのシスター田口が、各国が自国のSDGsの進捗状況を報告する「国連ハイレベル政治フォーラム」の共済イベントで、日本政府の報告「自発的国家レビュー」をモニターし、本校のSDGs教育の例もあげて、オンラインで発表された時のことです。

英仏スペイン語で行われた深夜に及ぶ国際イベントには、100名を超える世界中からの参加者の中に、中学生を含む本校生が5名参加していて、嬉しい驚きでした。

札幌聖心では、様々なネットワークから、差別や難民、環境問題等について考えるウェブセミナーやオンラインプロジェクトなど、多くの呼びかけが日常的にあり、生徒たちはそれに積極的に応え、考え、行動しています。

コロナ禍は、一人ひとりが「地の塩」として成長していることに、あらためて気づかせてくれました。

[担当：校長 齊藤隆浩]